

平成30年度 外部及び内部学校評価

年間評価

平成31年2月

アンケート集計と達成目標数値に基づく評価

- 1 学校運営の充実
- 2 学習指導の充実
- 3 進路指導の充実
- 4 生徒指導の徹底
- 5 教育環境の整備
- 6 部活動の充実と振興

福島県立喜多方東高等学校

平成 30 年度 外部及び内部学校評価の集計結果 (2月)

●年間学校教育評価票(アンケート)集計対象と回収状況

アンケート対象	対象人数	配付数	回収数	回収率	備 考
生徒	229	228	228	100%	中間 100.0%
保護者	229	228	110	48.3%	〃 53.7%
教職員	22	22	22	100%	〃 100.0%

●年間評価

★ 1 学校運営の充実 重点目標 4：信頼される学校づくり

◇アンケート評価：【総合=4.1】 (中間評価=4.2) (アンケート項目番号 年間評価 中間評価)

- ・きめ細かく丁寧な指導を心がけ、面倒見のよい学校づくりに努める。…… (教員13 4.3 4.2)
- ・PTAや地域社会との連携強化に努める。…… (教員14 3.9 4.0)
- ・不祥事防止に努める。…… (教員16 4.6 4.7)
- ・本校にはよい校風がある。…… (生徒2 3.9 3.9)
- ・学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えてくれる。…… (保護者1 4.1 4.1)
- ・本校のPTA活動は活発である。…… (保護者5 3.8 4.0)

◇総評： 3項目について、中間評価よりも、年間評価のほうが下がっているのが気になる点である。特に、「PTAや地域社会との連携強化に努める。」(教員)、「本校のPTA活動は活発である。」(保護者)の項目である。90周年記念式典・事業と、各種PTA活動への保護者の参加の少なさによるものかと思われる。PTA評議員の方々には、評議員会をはじめ、朝のあいさつ運動や祭礼補導、花植え作業、PTA進路学習会、PTA広報誌の編集・発行、市内4校ボウリング大会や懇親会への参加など、忙しい中ご協力をいただいている。一方、一般会員の方のPTA総会や学年会への参加、PTA進路学習会への参加率は、なかなか向上しない。仕事が忙しいのは当然のことではあるが、仕事が忙しくても学校の行事に参加しよう、クラス担任や部の顧問の先生と話がしたいと保護者に思っただけのためには何が必要か考え、実行していく必要がある。そのために、生徒たちの活動の様子や学校の行事等について、さらに情報を発信するとともに、開かれた学校にしていく必要があるだろう。

本校のこれからを考えた場合に大切なことは、生徒数の少なさを生かして、「面倒見のよい学校」であることと、それを外部に発信していくことだと思われる。学習指導・進路指導・部活動の指導等において、クラス担任や教科担任、部活動顧問の丁寧な指導が求められている。また生徒だけではなく、その保護者や地域の人々に対しても同様に「面倒見のよい」学校であることが求められている。学校・教員側の自己満足におわることなく、学習と学校生活の主体である生徒自身が「本校にはよい校風がある。」と胸を張ることができ、「本校に入学してよかった。」と思えるものが、それぞれの生徒に必要であろう。そのためには、わかる授業の実践、自分の居場所があると思える環境づくり、自分の活動の場があり先生方からもクラスメイトや友人からも、また家族からも自分が認められているという実感を味わわせることが大切になってくると思われる。

★2 学習指導の充実 **重点目標1：基礎学力の向上**

◇アンケート評価：【総合=3.9】（中間評価=4.0）	(アンケート項目番号)	年間評価	中間評価
・分かりやすい授業の実践に努める。……………	(教員1)	4.1	4.2
・あらゆる機会をとおして基礎学力を向上させるよう努める。……………	(教員2)	3.9	4.1
・家庭における学習習慣の定着を図る。……………	(教員3)	3.4	3.6
・定期的な研修や授業評価により教科指導力の向上に努める。……………	(教員4)	3.8	3.7
・授業はわかりやすく充実している。……………	(生徒3)	3.8	3.8
・授業に真剣に取り組んでいる。……………	(生徒9)	4.2	4.1
・朝の読書にきちんと取り組んでいる。……………	(生徒10)	4.1	4.3
・子どもは学習活動に意欲的に取り組んでいる。……………	(保護者9)	3.9	3.9

◇総評：今年度の学校運営ビジョンの重点目標1に掲げられた「基礎学力の向上」の総合評価は3.9と中間評価比で-0.1ポイントとなり評価を下げた。評価を下げる主な原因となったものは、教員のアンケート項目「あらゆる機会を通しての基礎学力の向上」、同じく教員のアンケート項目「家庭学習の習慣化」、さらに生徒のアンケート項目「朝読への取組み」であり、いずれも中間評価比-0.2ポイントであった。

「あらゆる機会を通しての基礎学力の向上」が評価を下げた理由は、あらゆる機会が「校内基礎力テスト」、「基礎力診断テスト」、「朝の読書」、「日頃の授業」のどれを指しているのか漠然としていて、学校をあげて力を注いでいく目標としては、適切ではなかったと考えられる。ただし、数字上の評価が低下してはいるが、「基礎学力の向上」に向けた取組として、1学年で新たにスタートした長期休業中の「教養課外」や、昼休み中の「数学の学習会」などの試みが成果を挙げ始めており、今後の成り行きに期待したいところである。「家庭学習の習慣化」に関しては、国数英の3教科において定期的に週末課題を与えていたが、これをきっかけに家庭での学習の習慣化にはつながっていないと多くの教員が考えているアンケート結果であった。本校生の家庭学習が十分とは言えないことについては、2学期に実施した家庭学習時間調査でも明らかであり、この問題については国数英の担当者だけではなく、全職員が当事者意識を持って考えていかなければならない。「朝読への取組み」については、生徒の自分自身の取組に対する自己評価であり、これも中間評価比で低下している。朝読の時間中にスマホや携帯電話に夢中になっている生徒はいないと思われるが、中には朝読に取り組むよりも、家庭で取り組むべき教科の宿題や週末課題を優先してしまっている生徒がいるためであると思われる。本校では伝統的に「朝自習」ではなく「朝読」を採用している。なぜ朝自習ではなく朝読なのか、この意味をよく考えてみて、朝読の時間を本来の目的のために有効に活用してほしい。

★3 進路指導の充実 **重点目標2：進路希望の実現**

◇アンケート評価：【総合=4.2】（中間評価=4.3）	(アンケート項目番号)	年間評価	中間評価
・3年間を見通したキャリア教育の推進に努める。……………	(教員5)	3.9	4.1
・個に応じた進路指導の充実に努める。……………	(教員6)	4.4	4.3
・保護者と連携した進路指導の推進に努める。……………	(教員7)	3.8	4.3
・進路だより等を活用し、適切な進路情報の提供に努める。……………	(教員8)	4.6	4.6
・学校は進路についての情報をよく知らせてくれる。……………	(生徒6)	4.3	4.3

・学校は、進路についての情報を家庭へ適切に提供してくれる。……（保護者3 4.0 4.1）

◇総評： 中間評価に比べ「3年間を見通したキャリア教育の推進に努める。」「保護者と連携した進路指導の推進に努める。」が一評価となった。生徒のキャリア教育は、進路指導だけの問題ではなく学校全体の課題と考える。進学、就職と多岐にわたる進路希望を実現には、学習、特別活動などに意欲を持って積極的に向かう姿勢を育むことが必須であり、基礎学力の定着、家庭学習を中心とした生活リズムの確立、素直で勤労意欲のある愛される人間性を育む全体指導に重きを置いているため、個々の進路希望に対する具体的な進路指導が不足している印象を与えているのではないかと考える。文部科学省では「キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア（経験）発達を促す」としており、さまざまな教育活動を通して、一人ひとりの基礎的・汎用的能力の発達や育成、職業人としての自立を促すことが目的となっている。本校のキャリア教育もその指針に沿い適切に行われていると考えるが、個々の進路希望実現のための取り組み（面接週間を活用した個別面談、進路指導部面談、各種職場体験の申込み、公務員希望者の外部セミナー紹介や校内模試、ボランティア活動の募集など）についても生徒・保護者・学校で共通理解をしつつ、本校のキャリア教育についての理解が得られるよう努めたい。

また、「保護者と連携した進路指導の推進に努める。」については、学校との連携を希望する保護者が多いことの現れだと感じる。保護者への様々な発信を増やしていきながら、生徒の進路実現に向け協力体制を築いていきたいと考える。

★4 生徒指導の徹底 **重点目標3：社会性の向上**

◇アンケート評価：【総合=4.1】（中間評価=4.2） （アンケート項目番号 年間評価 中間評価）

- | | | | |
|--------------------------------------|-------|-----|------|
| ・基本的な生活習慣の定着を図る。…… | （教員9 | 3.7 | 4.1） |
| ・法令や規則の遵守と規範意識の向上に努める。…… | （教員10 | 4.2 | 4.2） |
| ・教育相談と組織的な生徒指導を充実させ、生徒の心の安定を図る。…… | （教員11 | 4.2 | 4.1） |
| ・学校は悩みや相談に親身になって応じてくれる。…… | （生徒5 | 3.8 | 3.7） |
| ・時と場に応じた言葉遣いをするなど、礼儀をわきまえた行動をしている。…… | （生徒11 | 4.4 | 4.4） |
| ・服装や頭髪など、校則を守って学校生活を送っている。…… | （生徒12 | 4.5 | 4.5） |
| ・学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。…… | （保護者2 | 4.0 | 4.1） |
| ・学校は、生徒の間違った行動について適切に指導している。…… | （保護者7 | 4.2 | 4.2） |

◇総評： 「基本的な生活習慣の確立」、「法令や規則の遵守と規範意識の向上」については、特に注意し改善すべき点と捉え、教職員全員の共通理解を図りながら、計画的・継続的に行ってきた。服装・頭髪指導の様子や、遅刻指導の様子などを昨年度と比較して、かなり落ち着いた雰囲気中学校生活を過ごしている印象である。しかし、なかなか頭髪の改善が見られなかったり、化粧をしたり、色付きのリップクリームを使用している生徒も見受けられる。服装では一部の女子生徒の短いソックスが目立つので、今後も引き続き指導が必要である。短いスカートは、注意された直後は直す姿も見られるが、正しい長さではき続ける状態には至っていない。

一方で課題となっている「悩み・相談に対する対応」であるが、本校ではカウンセリングを希望する生徒が多く、予約が取りにくい状況が続いている。カウンセリングの相談内容は、対人関係（友人・部活動）や家庭に関するものが多い。対人関係のトラブルの原因としては、生徒の価値観の多様化、感情のコントロールやコミュニケーション不足等があり、1年生を対象にスクー

ルカウンセラー（以下SC）による円滑な対人関係を築くための講演を行っている。また、家庭に関する相談については、スクールソーシャルワーカー（以下SSW）や関係機関との連携が必要であると強く感じる。今後も、SCやSSW、関係する教職員と協力しながら教育相談のありかたについて検討していきたい。

★5 教育環境の整備

◇アンケート評価：【総合=4.0】（中間評価=3.8） （アンケート項目番号 年間評価 中間評価）

- ・安全安心、校内美化の両面から学校環境の整備に努める。……（教員15 4.4 4.3）
- ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。……（生徒7 3.8 3.5）
- ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。……（保護者4 3.7 3.1）

◇総評： 生徒と保護者共に、学校の施設・設備について概ね満足している状況である。日頃から丁寧な清掃と丁寧な使い方を心がけているためだと考えられる。今年度は、部活動で利用することの多い外トイレについては、部活動による輪番制にして対応した。また保健委員会でも、定期的なモップ洗いや、清掃用具の交換を行ったりするなど、清掃環境の整備に向けて活動することができた。来年もクラス減となるため、清掃時間にカバーできる清掃区域はさらに少なくなるが、今年度同様に工夫をして、東高校のセールスポイントの1つである「きれいな校舎」を全員で維持していきたい。

教育環境の整備について、今年度はプール脇ブロック塀の撤去、校舎内の防火扉及び非常口の表示等を改善してきたところである。さらに、これまで懸案であった普通教室へのエアコンの導入が2019年夏までに進められることが発表されている。予算面での限界はあるが、より安心安全な教育環境の整備のために新年度も努力をしたい。

★6 部活動の充実と振興

◇アンケート評価：【総合=3.8】（中間評価=4.0） （アンケート項目番号 年間評価 中間評価）

- ・集団意識の形成や、充実感・達成感が得られるよう部活動の活性化に努める。……（教員12 3.6 4.1）
- ・部活動に積極的に取り組んでいる。……（生徒8 3.7 3.7）
- ・子どもは積極的に部活動に取り組んでいる。……（保護者10 4.1 4.2）

◇総評： 今年度の入学生が44名（内男子6名）であり、さらに秋頃より主力の2年生の退部も相次いだため、3年生引退後、各部での部員不足は深刻である。各部の活動にも深刻な影響を与えており、このことが教員の年間評価が下がった一因と考えられる。選手不足や活動が十二分にできないためか、今年度東北大会以上の大会へ出場したのはボート部のみであり、さびしい結果となった。これらの状態を解消する為、演劇部、ソフトボール部の次年度部員募集の停止を決定したが、存続する部活動が運動部8部、文化部2部で、運動部偏重の体制となり、運動が苦手な生徒に対する受け皿が十分ではなくなった。また、昨年度に続く、部活動の募集停止で生徒の意気消沈が心配される。さらに、今年度設定された、週当たり平日1日及び土日いずれか月2日以上部活動休養日が、生徒評価の点数が伸びないことに一因になったと考えられる。次年度は、生徒のニーズに合わせた部活動の再編成や新規部活動の立ち上げ等も検討し、生徒が主体的に活動できる場の提供に努めたい。